

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072100312		
法人名	社会福祉法人 法延会		
事業所名	グループホーム旧軽井沢		
所在地	長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢222番地1		
自己評価作成日	平成21年10月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072100312&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072100312&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手作りの料理やおやつ作りに力を入れている。  
 みんなで行う戸外レクリエーションに力を入れ楽しんでいただいている。  
 利用者同士又スタッフを含め、お互いを思いやる場面が多く見られる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所に入ると、職員の包み込むような笑顔に出会い、利用者職員で作り出す、明るく笑顔のある、穏やかで落ち着いた暮らしぶりを感じられた。管理者と職員、職員間のコミュニケーションが良く取れていて、職員の意見を十分に聞いて、速やかに実行するなどサービスの向上を目指している事業所の前向きな姿勢を感じられた。介護計画はセンター方式を土台とし、アセスメントから評価まで、着実に業務の流れが良く、月1回、実施状況を把握して利用者の心身の状況に即した、その人らしく暮らし続けるための計画を立案していた。食事は「手作り」を重視し、利用者の調理の知恵を借りながら、利用者の張り合いや楽しみに繋がるよう取り組んでいた。入浴は利用者の希望を大切に、何時でも利用でき、寛いだ気分を十分に味わえるよう支援している。歴史と実績を備えた併設施設との協力関係を最大限に活用して、利用者が安心して暮らしていけるよう、さらなる工夫を重ねられることを望みます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方らしい生活ができるよう、地域の皆様と連携をとり援助を行っている。又理念は現在の既存のものをさらに文章の簡略されたものにと検討中である。	事業所独自の理念として、職員のあるべき姿勢とサービスの在り方を4項目にまとめ、ミーティング等で共有化しながら、実践につなげている。	現在の4項目の理念を分かり易く、地域密着型にふさわしい理念になるよう全職員で検討しているが、事業所の大きな柱となり、多くの方から支援を得られる理念を、早期に作り上げることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、地域活動に参加できるよう心がけている。車いす散歩を兼ねてスタッフも一緒にゴミゼロ運動に参加している。又隣組に加入し、広報の回覧にも参加している。季刊誌の配布によりホームへの理解を得ている。	近くの公園や旧軽銀座の散歩時の挨拶、事業所独自の活動としてのゴミゼロ運動、自治会の隣組への加入や回覧板、実習生の受け入れなど地域とつながりながらの暮らし作りに取り組んでいる。又、年4回、「こもれび」を発行し、地域住民の事業所理解の機会にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は地域の方への認知症介護の講演を行ったが、今後小規模ながら車いすなどへの移乗、移動の行い方なども実践を通じて伝えたいと考慮中である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの向上に活かしている。	年2回開催し、行政や地域住民が委員となり、意見交換も行われ、双方向的な会議となっている。緊急時の対応、事業所の地域での役割、評価の件など具体的な課題の話し合いが行われている。	運営推進会議は地域の理解と支援を得たり、外部の人々から見える事業所の姿を知る貴重な機会でもあるので、開催回数を増やして、サービスの向上に繋がる貴重な意見を得ることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ボランティアの受け入れを行っている。軽井沢町社協より研修の受け入れを行っている。	歴史と実績のある併設施設が行政との連携を密に行っており、その関連や運営推進会議を事業所で開催し、行政から2名参加するなど協力関係は良好である。又、町の社協の研修を受け入れるなど社協との連携も図っている。	

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの打ち合わせや日々話し合いを行いながら、ケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロの手引きを勉強したり、マニュアルも整備され、「拘束しないケア」については職員への共有化が出来ている。無断外出しそうな利用者が居るが、見守りや連携プレーで対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個々のカンファレンスを日々話し合いながら虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で学ぶ機会があり、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ショートステイ、デイサービス、入居の利用の際には家族や本人が安心できるよう説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本位の生活ができるよう家族や利用者の希望を聞きながら援助を行っている。	面会時、金銭管理状況報告時、家族会などの折に利用者やご家族の思いや意見を聞いている。意見や苦情については職員会議で検討し、速やかな対応をしている。事業所たより「やまぼうし」は年3回発行し、利用者の元気な姿や笑顔を伝えて、ご家族からの安心を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームの打ち合わせや日々話し合いながらケアに取り組んでいる。	グループホーム打ち合わせ会では職員からの活発な発言があり、管理者も常に前向きに受け止め、速やかに実行するなど、サービスの質的向上を目指していることが伺えた。職員の定着率もよく、勤務表作成の希望の取り入れもよく、勤務交代は極めて少ないことを伺った。	

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>グループホームの打ち合わせ会議の他、日々意見を聞きながら行っている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や内部の職員会議等で、力量がアップするようトレーニングを行っている。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>軽井沢町社協のボランティア受け入れや研修受け入れ、静山荘との交流を行っている。又今後同法人の宅老所ふらりとの交流も検討している。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者は、日中はリビングで過ごされることが多く、スタッフと一緒に過ごして関係づくりに努めている。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族とスタッフは、常にコミュニケーションをとっている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>対応に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく一緒に出来ることを模索しながら本人の残存機能を見極めながら関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら、援助に取り組んでいる。面会時は本人の現状を伝えながら家族と過ごす時間も大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブや来訪者を積極的に受け入れている。	友人が訪ねて来たり、馴染みの理容院へ行ったり、ドライブや食事にも出掛け、利用者の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう取り組んでいる。電話や手紙の連絡についても、相手のことを考慮しながら支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々一緒に過ごしており、関係の構築やお互いを思いやる光景も見られる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族と連携をとりながら行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努め、利用者本位に生活できるよう心掛けている。	センター方式により利用者の基本情報や暮らし、心身、焦点情報を十分に理解、把握し、利用者の「今」の思いや意向を把握するよう努めている。料理の味付け、下準備、茹で方など利用者の知恵を借りながら、共に暮らすことの楽しさが感じられるよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より話を伺いながら行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、一緒に過ごしながら心身の現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム又家族・本人と話し合いながら介護計画モニタリングを行っている。	課題分析はセンター方式を活用し、毎月行われるカンファレンスを通じて職員の見解を取り入れ、介護計画は作成されている。実施記録から評価の流れもよく、月1回の実施状況の把握、3か月に1度の計画見直し、心身の状況に応じての臨機応変の見直しと現状に即した介護計画が作成されていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録を介護計画に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス・ショートステイの受け入れや必要に応じての受診、外泊・外出の支援をその時々に応じて行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	静山荘での警察署交通課の交通安全教室へ参加、地域の方々の協力を得ての避難訓練などが行われている。		

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を聞きながら状況に応じて適切な病院受診を行っている。</p>	<p>利用者のご家族の了解を得て、事業所の協力医療機関がかかりつけ医となっている。週1回の往診対応、歯科・認知症専門医・入院対応病院があり、通院への付き添いは職員が代行しており、医療面での利用者、ご家族の安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフの中に準看護師が1名、静山荘に1名おり連携が取れている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は援助を行い、医療関係者との連携や入院時の様子伺い、洗濯物の入れ替え、又早期退院に向けて努力している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医、家族、本人の方針を共有し支援に取り組んでいる。</p>	<p>過去に重度化、終末期の対応をした経験があり、その場に即したご家族、医師、事業所の良好な連携を行った。ご家族への説明、他の利用者やそのご家族の理解もあり、職員の終末期への対応の共有化も出来て、重度化や終末期に対する具体的な取り組みは出来ている。</p>	<p>重度化や終末期対応については、事業所として出来ること、出来ないことを精査して対応方針を文書化し、入居時や対応が必要になった時期に説明し、理解と納得を得よう取り組まれることを期待します。時間の経過により思い違いが生じない様、都度の話し合いも重ねることを望みます。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修を受け又実践に備えて話し合いを行い、取り組んでいる。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を行い、地域との連携が取れている。</p>	<p>併設施設と合同で、消防署や地域住民、消防団の協力を得て、避難誘導・通報・消火の訓練を年2回行っている。自動通報装置などの防災設備は町の補助を得て、期限までには設置する予定であることを伺った。</p>	<p>合同訓練であるため、グループホームにとっての防災対応が弱くなっていると思われるので、単独の訓練を行い、さらに全職員が周知するためにイメージトレーニングなどを取り入れることを期待します。居室が2階であり、階段利用の避難になるので、訓練を兼ねて、階段利用を頻度よく行うことを望みます。</p>

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しての研修を受けたり、日々のケアの中でスタッフ間での確認を行いながら意識を高めている。	プライバシー、接遇、マナーの研修を行ったり、日々の言動については管理者から、又、職員同士で注意し合っているなど利用者一人ひとりの尊厳の保持を目指して取り組んでいる。個人の記録は鍵の掛かる収納庫に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞きながら、又チームで解り合えるよう話し合いを行い、支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフからの提案もあるが、その人のペースを大切に、希望も聞きながら支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で準備、後片付けを一緒に行い、食事はスタッフと一緒に会話も楽しみながら、又メニューも好みを取り入れ嫌いな物も工夫をして楽しんで頂けるよう支援を行っている。	調理の下準備から食器拭きまで、出来る範囲で利用者と職員が一緒になって行っている。献立は併設施設の栄養士が大半を作るが、週1回は独自の献立とし、利用者と相談して作成している。手作りの料理やおやつに力を入れており、利用者の希望を聞いて懐かしいものを多く取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量を考え個々の状態や量、形態に配慮しながら支援を行っている。		



外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンをつかみ、支援を行っている。	全員がトイレ使用であり、声掛けが必要な利用者と全介助である利用者がいるが、いずれも一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへの誘導や声掛けを行い、排泄への自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックを行い、水分補給や個々の便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見つつ本人の希望を聞いて個々に沿った支援を行っている。	入浴は利用者の希望により、何時でも午後4時から6時の間に利用できるようになっている。平均して1日2～3名、週1人2～3回の利用になっている。重度者はリフト浴対応をしている。ゆず湯などの季節感を味わう入浴も取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやスタッフと一緒に毎日楽しく過ごせるよう又、個々の生活歴を活かした生活なるよう支援を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により回転寿司や藤棚を見に行ったり動物愛護センターや日常の買い物など出来る限りの支援を行っている。	近隣の公園や旧軽銀座の散歩、買い物外出、外気浴を兼ねたテラスでのお茶会など戸外に出る機会を多くするよう取り組んでいる。利用者の希望を聞いて、花見、藤棚見学、回転寿司、動物愛護センターなどへの外出も行なっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が出来ない人もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、行事の時は飾り付けを一緒にに行い楽しんでいる。	台所、食堂、居間のフロアーが一体化されており、調理の音や匂いが感じられ、採光もよく、窓からは木々に囲まれた軽井沢ならではの風情が味わえるようになっている。居心地よく過ごせる場所となっている。食堂で午睡時以外は、利用者が安心して語らい、集い、職員と和やかに談笑している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室に於いて利用者同士で語らっている姿が見られる。		

外部評価結果(グループホーム旧軽井沢)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに好みの家具を持ってきて頂き居心地良く過ごされている。	事業所で準備したベッド以外は全て、利用者ご家族で思い思いの馴染みの物を配置できるようになっていた。テレビ、たんす、写真、机、椅子など利用者好みに置かれていた。全室2階であるので防災面での細心の注意が必要であることが感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるよう工夫されている。		